



Via Latina 22

2021年12月 305号

総本部よりのお知らせーマリア会

カナダ地域共同体への視察訪問

総長 André Fétis師は教育局長と霊生教区長（Maximin Magnan士とPablo Rambaud師）を伴い2021年10月18日－25日の日程でカナダ地域共同体を視察訪問しました。



サン・タンセルム修道院(ケベック州)の眺望

総長評議員会の3名のメンバーはケベック州南部にあるサン・タンセルムの共同体に迎えられました。3名のメンバーはまた健康状態のために看護施設に居る4名の会員を訪問しました。その中の1人フランソワ・ボワソノー師は私たちの訪問の数週間後に帰天しました。彼らはまた、聖オーガスチン共同体に属しそこで活動している2名の同僚たちと共に2日間過ごしました。

総長評議員会は、数名のマリア会員が支援している信徒マリアニストによって運営されている黙想と養成の施設であるサン・タンリ・マリアニストセンターを訪れ、そこで集中した1日を過ごしました。

2021年10月22日に、パンデミックが理由で何か月も開催できなかったカナダ地域共同体の集会を開催することが出来ました。それはカナダ地域共同体の全メンバーが集まる1日でした。それはまた皆で分かち合い、将来について語り、そしてお祝いをする1日でもありました。ミサは総長によって司式されました。この祭儀の間、幾人か同僚の叙階記念日と誕生日のお祝いがなされました。



カナダ地域共同体のメンバーと総長評議員

カナダのマリアニストの現状は今日、非常に小さな規模ですが活動的です。同僚たちは可能な限り小教区において、またカナダの教会に奉仕を継続している様々な教会的なセンターや施設において協力しています。私たちは彼らの献身、寛大さ、そしてもてなしに感謝します。

マリアニスト家族世界評議会の会議 (2021年11月11-13日 ローマ)

マリアニスト家族世界評議会が対面で開催されてから2年が経ちました。このような訳で、私たちは今年この会議を新しい喜びを持って開催しました。

この世界評議会は4つの枝の評議員会メンバーによって構成されています。その使命はマリアニスト家族内の協力を強化することにあります。世界評議会は各枝の責任者が順番に議長を勤めます。FMIのシスターFrancaはこの任務を終了し、その任務をアリアンス・マリアルの責任者Marie-Laure Jeanに引き継ぎました。



ローマに集まったマリアニスト家族世界評議会のメンバー

今年、私たちの会議は、聖霊の私たち家族への呼びかけに耳を傾けるために、一日の黙想によって始められました。カトリック福音宣教連合議長のDonatella Acerbi女史が黙想を指導しました。カトリック福音宣教連合は、福者シャミナードと同世代の人Vincenzo Pallottiによってローマに設立されたPallotine家族と一緒にいます。彼女の考えは大変示唆に富んだものでした。

この一年間に、全てのマリアニスト家族評議会に対して、家族としての生き方について意見聴取が行われました：それは養成、青少年・召命司牧、福音宣教、およびコミュニケーションに関するものでした。多くの回答が寄せられ、それらは私たちの考えを支持し、次の4年間の方向を作りあげるのに助けとなりました。これらの回答は、私たちの生活と活動の一致を強化するための熟考とインスピレーションの源として、世界評議会とともにマリアニスト家族全体のためにも活用するつもりです。

これらの方針にもとづいて、私たちは家族評議会の機構について考察すること、この機構を改善すること、そしてそれを家族全体への奉仕においてより効果的にすることを決定しました。私たちの独自の伝統に忠実でありながらも、他の霊的家族の経験から学ぶために彼らとの交流がなされます。私たちはまた、青少年・召命司牧の分野で協力し、また「私たちが共に暮らす家」の保護に献身することによって、私たちの宣教上の一致を強めたいと思います。また私たちは一緒に、お互いのために行う養成においてお互いに助け合いたいとも望んでいます。これら全てについて、詳しくは世界評議会からの文書資料、[“2022-2025年の方針”](#)に記載されています。この方針は[メッセージの要約版](#)と一緒に数日前に皆さんに送付されました。この資料を広く活用してください。



マリアニスト信徒共同体の世界評議会：(左より) Mercedes de La Cuadra (スペイン/ヨーロッパ)、Marceta Reilly(北米/アジア)、Domingo Fuentes, SM (Assessor)、Béatrice Leblanc (国際責任者)、オンラインでFrancisca Jere(ザンビア/アフリカ)、Nidia Rodriguez(コロンビア/ラテンアメリカ)

私たちの総本部で信徒マリアニスト世界評議会 (WCML) が11月8, 9, 10の3日間、会議を開催した事もまた注意すべきです。この会議の目的は2022年7月にマドリードの近郊で開催される信徒マリアニスト共同体の国際会議を準備するためでした。私たちの慣習なのですが、FMI本部で食事を分かち合って私たちはこの集会を終えました。

福者Carlos Eraña, 気取ったところのないヒロイズム

福者Carlos Erañaは1936年9月18日、スペイン、シウダー・レアル市の近くで殉教しました。その時彼は51才でした。33年間の修道生活でした。今日、私たちは彼の生涯は短かったと言うでしょう。しかしながら、ある人の生涯について重要なことは、それが長いか短いではなく、中身が濃いものであるか空疎なものであるか、実りをもたらしたか不毛なものとなってしまったか、であることを私たちは知っています。その人が自分自身の意味ある道、つまり神の愛の呼びかけに対して自分自身の応え方を見いだすような生涯こそ価値があるのです。ここで私たちはCarlos Erañaの人生の歩みの特徴づけるこれら呼びかけと、その呼びかけに彼がどう応えたかを思い起こしたい。彼の応答は私たちへの示唆となります：すなわち、彼にとって神の愛の呼びかけは、

- 生活と信仰への呼びかけでした：彼の場合、生活と信仰は一体化されていました。なぜなら、彼は信仰と生活が全面的に結び合わされていて切り離せない家庭に、また社会的背景の中に生まれたからです。とはいえ、彼にとって信仰は単に何か継承されたもの、当然のことと見なされるものではなく、自分が注意して育てる体験でした。
- マリアニスト修道者への召命でした：その召命はとても平凡なかたちで彼に起こりました；スペイン管区の志願院はEskoziatzaの町（ギブスコア県）の彼の家からたった2キロのところであり、彼はそこで行われていることに心を惹かれました。それがマリアニスト世界との彼の初めての触れ合いであり、その世界で彼は増々アット・ホームな気持ちになり、マリアニストの世界に完全に身を置くに至りました。



シウダー・レアルのコレヒオ・ヌエストラ・セニョーラ・デル・プラドの校庭にあるCarlos士の胸像

- 教育と福音宣教の使命への召命でした：その当時のマリアニストの福音宣教活動は全面的に学校を通しての教育に焦点が絞られていました。とはいえ、Carlosは受動的なかたちで単純に一般的な傾向に合流したのではなく、彼は学校で行われている教育と使徒活動の中に自分の個人的な宣教の使命を見出したのです。彼は優れた教育者として頭角を現しました。彼は管区のいくつかの教育事業において責任ある地位を引き受けました。労働階級家庭の子供たちの無料教育のための

教区立、シウダー・レアルのInstituto Popular de la Concepciónの校長としての彼の役割は大変今日的な意味を帯びていました。彼はこの学校で16年間活動しました。この学校で、彼は懸命に働き、幸せでした、そして彼の生徒や町全体から大変評価されていました。

- 殉教への召命でした：Carlosは、多くのカトリック信者と同様、自分が見境のない宗教的迫害の環境にいると気づきました。人の注意を引くことも、あるいはどんなヒロイズムの行為を見せることもなく、彼は自分の信仰と自分が誓願によって誓ったことに忠実である形としてこの状況を受け入れました。彼は平静に自分の死と向かい合いました。彼が捕えられ銃殺されたのは、彼が最も貧しい人々への奉仕に休むことなく働いてきた正にその場所でした。逮捕状も裁判もありませんでした。

“身よ、わたしの僕・・・彼は叫ばず、呼ばわらず、声を巷に響かせず、傷ついた葦を折ることがない。・・・彼は裁きを導き出して、確かなものとする。彼は暗くなることも、傷つき果てることもない、この地に裁きを置くときまでは・・・”。“弁解も裁きもなく彼は取り去られた・・・そして、主の望まれることは彼の手を通して成し遂げられる”。預言者イザヤの言葉を思い出しながら、私たちはマリアニスト殉教者たちの気取ったところのない忠実なヒロイズムについて神に感謝し、また、彼らのとりなしに私たちを委ねます：

「福者Carlosよ、私たちが神の呼びかけに、それが何であろうと、気取りのない生活と環境において応えるようお助けください。神の国への奉仕における私たちの召命に対して意味と実りをもたらす忠実な愛をもって、私たちが神の呼びかけに応えますように。」

新たなボランティア計画がラテンアメリカで開始



アルゼンチンにいるVLM調整役のJosé Luis Pérez (右)とマリアニストボランティアのJorge del Ceo (スペイン) (左)とNatalia (中央) 地域共同体責任者の一人

ラテンアメリカゾーン (CLAMAR) はゾーン全体のマリアニスト事業にボランティアを受け入れる新たな協力の取り組みを始めました。この計画の中には、アルゼンチン、ブラジル、チリー、コロンビア、エクアドル、あるいはペルーで、マリアニスト事業に関連するボランティア活動に6ヶ月から1年の間、参加する（最低年齢21歳）成人した若者ために色々な機会があります。“VLM” (Marianist Volunteers of Latin America)と呼ばれるこの計画は、長い間マリア会との提携者で多くの国際プロジェクトの協力者であるJosé Luis Pérez氏によって調整されます。各国にはそれぞれ1名の地域のまとめ役と世話役があり、彼らの使命は最初の識別と準備の期間中、またボランティア奉仕の実際の期間中に、ボランティア奉仕者に付き添うことです。

勿論、パンデミックの現況下でこのよう

なイニシアティブ着手することは困難でしたが、小さなステップは既に始まりました。この計画に関する更なる情報に興味がありましたら、[ここ](#)をクリックしてください。



TOTA PULCHRA ES, MARIA (マリアよ、あなたは全てが麗しい)

これはFMI総長シスターFranca Zontaが彼女の第22番目の回章の表題です。この素晴らしい考察を読むためには、あなたが好む言語のリンクをクリックしてください。

[英](#)・[西](#)・[仏](#)・[伊](#)



福者シャミナードに対する祈りの意向

マリアニスト修道者と共同体に対して、私たちは次の2名の病気治癒のために、福者ギョーム・ヨゼフ・シャミナードにノベナの祈りを捧げるようお願いいたします。

－**Mr. Thierry(56才)のため**。Mr. Thierryは結腸癌の最終段階で苦しんでいます。医師たちは彼を自分の家庭に帰し、緩和ケアを行っています。この依頼は、フランスの信徒マリアニスト共同体の責任者であったAgnes Pitoux女史の依頼を受けて、André-Joseph Fétis師から要請された祈りの意向です。

－**Joseph Miclo士のため**。彼はフランス、アルサスのサンティポリット共同体のマリアニスト修道士です。私たちの同僚Joseph Micloは75才で11月1日、コルマルで入院し、重篤なうつ病に苦しんでいます。彼の病状は、彼が受けている医師の治療にもかかわらず、大変気がかりです。フランス管区長Hervé Guillo du Bodan士がこの祈りの意向を要請しています。



総本部共同体とシャミナード国際神学校共同体は、全ての兄弟姉妹たち、
彼らの協力者たち、そして彼らの家族に対して、
ご生誕の喜びと幸多い2022新年のご挨拶を申し上げます！

最近の総本部通信

- 訃報：27号
- 11月25日：マリアニスト家族世界評議会からのメッセージ（WCMF）、3か国語で全マリアニスト修道者宛て送付
- 11月29日：2021－2022マリア会教育活動の統計に関する要請の手紙が教育局長、Maximin Magnan士から全教育補佐宛て送付（ラテンアメリカを除く）

総本部の日程

- 12月3－17日：霊生局長、Pablo Rambaoud師、マリアニスト養成コースの準備の会議のため、および東アフリカ地区の2名のマリアニストの叙階式への出席という目的で、ケニアを訪問します。

メールアドレスの変更

- A. Mahoungou士(FR): mahomahongou@gmail.com
- W. Mboma Malie士(FR): awilomboma@gmail.com
- K. Nganga Longui士(FR): kevinnganga@gmail.com